



手作り野菜でスープカレー

美津島町の鶏鳴幼稚園

7月21日、対馬市総合福祉保健センターで、鶏鳴幼稚園の園児とその保護者らが参加して、スープカレー作りが行われました。

これは、長崎県の男女共同参画支援事業の一環として行われたもので、幼稚園の保護者活動はお母さんまかせのお父さんたちにも積極的に参加してもらおうと、鶏鳴幼稚園の保護者グループ「おやどりの会」が実施しました。

スープカレーの材料となった野菜の中には、園児と保護者による手作りのものもあって、その野菜を育てるための堆肥作りから取り組んできた参加者にとっては格別な味だったようです。

高齢者に百日草をプレゼント

～花言葉は「幸福」「絆」～

対馬北警察署が7月12日と16日に上県町榎滝の仁田地区デイサービスセンター「御嶽の里」で実施した高齢者の交通事故防止、振り込め詐欺被害防止を呼びかける安全講話で、講師として出席した村瀬金哉巡査部長（榎滝駐在所員）が、駐在所裏庭で育てた百日草を通所者一人ひとりにプレゼントしました。

百日草の花言葉は「幸福」「絆」で、お年寄りたちの末長い幸福を祈り、百日草にかけて百歳以上、いつまでも元気で長生きして欲しいと贈ったものです。思いがけないプレゼントに通所者の皆さんは笑顔を見せていました。



園児が元気に「アンニョンハセヨ」

6月25日、厳原幼稚園で授業「韓国語で遊ぼう」が開かれ、園児75名が韓国語を勉強しました。

園児たちにいるいろいろな人との交流を深めてもらうことを目的に同園が企画したもので、講師は国際交流員の成修眞さんが務めました。アンニョンハセヨ（こんにちは）

「アンニョンヒカセヨ（さようなら）」といった簡単な韓国語での挨拶の練習のほか、韓国の絵本の読み聞かせを行いました。

元気いっぱい園児たちは、積極的にみんなの前に出て大きな声で挨拶をしていました。とても上手な発音に交流員の



成さんも驚いていました。また、絵本の読み聞かせでも真剣に耳を傾けていました。

厳原幼稚園は、人気の観光ルート（万松院や対馬歴史民俗資料館）沿いにあるため、韓国人旅行者が毎日のように前を通り、挨拶を習った子どもたちは、早速習った韓国語で「アンニョンハセヨ」と挨拶し、喜ばれているそうです。

若い経営者の主張大会
最優秀賞に厳原支部の播磨孝記さん



6月20日、対馬市商工会青年部による「若い経営者の主張大会」が商工会上対馬支所で開かれ、厳原、美津島、豊玉、上対馬の各支部を代表した4名が青年部活動や地域振興のあり方について意見を発表しました。

1人の持ち時間は10分間で、発表内容や構成、表現力などが審査された結果、厳原支部の播磨孝記さん（37歳）が、最優秀賞に輝きました。
家業を継ぐため10年前に対馬に戻り、5年前から青年部活動を行っている播磨さんは発表の中で、現在暗い話ばかりが目立つ対馬にも、韓国からの観光客の増加など明るい材料もある。観光はリピートと口コミによって成り立つもの。せつかくの対馬再生のチャンスを失わないためにも魅力ある対馬」をアピールする努力をして行かなくてはならない。そして愛する対馬の未来と次なる世代の子どもたちのためにも、青年部の活動を通して対馬の小さな力になっていきたい」と主張しました。

播磨さんは7月17日、西海市で開催された県大会に対馬代表として出場し、見事第2位の成績を収めました。

白子ありあけ祭り 世代を超えて区民が祭りを楽しむ

厳原町白子区主催による第3回白子ありあけ祭りが区内のありあけ会館で7月13日に開かれ、多くの家族連れで賑わいました。

祭りは、小中学生約70名が出場したロードレース大会で幕を開け、多くの出店で賑わった会場では、ゲーム大会やアニメの映写会といった子ども向けのイベントに加え、ステージでは久田幼稚園児による可愛らしいお遊戯や、久田小和太鼓クラブによる蒙古太鼓の演奏、久田中学校3年生によるソーラン節や、婦人会による舞踊が披露されました。子どもから大人まで、多くの区民が楽しんだ祭りになりました。



ロードレース大会の様子

空き缶の投げ捨て防止看板を設置（上対馬）

6月24日、上対馬地区民生児童委員協議会のメンバー21名が町内の5ヶ所に空き缶投げ捨て防止を呼びかける看板を設置しました。

また、看板を設置しながら、道路脇の空き缶回収も行いゴミ袋36個分を回収しました。

空き缶は、捨てればゴミですがリサイクルすれば資源としてよみがえります。ドライバーの皆さん、車からの空き缶のポイ捨てはやめましょう。



美津島町海水浴場開き

7月1日、対馬観光物産協会中対馬支部と対馬市による美津島町海水浴場開き式が開催されました。勝見及び太田の海水浴場で関係者及びボランティアの方々が清掃をした後、「安全祈願祭」が行われ、期間中の無事故を祈願しました。

美津島町海水浴場は、長崎県が実施している水質検査で、今年も最上級の「AA」ランクを維持していることに加え、立地条件がよいこともあり、夏休みを中心に、島内はもとより島外からも海水浴客が訪れ、毎年7千人以上の方に利用されています。



西部中の生徒が高齢者を疑似体験
社協の福祉出前教室



高齢者体験用装具を着け階段を歩く生徒

7月17日、対馬市社会福祉協議会による福祉出前講座が西部中学校で開かれ、総合的な学習の時間の中で、健康福祉班に所属している生徒10名が高齢者の疑似体験を行いました。

生徒たちは、身につければ約80歳の老人の身体が体験できるよう作られた専用のサポーターや重りを、足首や膝、肘などの関節に装着し、耳栓を入れ、視野の狭さや白内障による色覚変化を体験するための眼鏡をつけて、階段を歩いたり、大豆を箸でつまむなどの日常生活での動きを体験しました。生徒たちは動きにくくなった体に戸惑い、驚いていた様子でした。

2年生の片山耕基くんは、「階段を登るとき足が重く曲げにくくて大変でした。なぜ、老人は動きが遅いのだろうと思っていましたが、きつき、大変さがわかりました」と感想を話しました。

生徒たちは9月には独居老人の自宅を訪問して交流する予定です。

豊玉中1年生が特養わたづみを訪問



7月2日、豊玉中学校の1年生26名が、特別養護老人ホームわたづみ(同町仁位)を訪問し、利用者約40名と交流しました。地域住民と心の交流を行い、地域社会との連携をいっそう深めることを目的に実施されたものです。

数日後に迫った七夕に合わせて、「いつまでも元気でいてください」など利用者の健康を祈る短冊を吊した七夕飾りを持参した生徒たちは、七夕の歌を合唱したり、豊玉音頭を披露して、利用者との交流を楽しみました。最初は恥ずかしがっていた生徒たちも、勇気を出してたくさんのお話に声をかけ、出身地や趣味、家族などの話で盛り上がりました。

利用者の一人は「楽しくて、涙が出るほど感謝しています。やさしくていい生徒たちです」と感激した様子で話しました。

「仕事の幅広さに驚きました」

比田勝海上保安署で高校生が職場体験

7月1日～3日、比田勝海上保安署で職場体験学習が実施され、上対馬高校の2年生2人(部原敏貴君、緒方裕樹君)が参加しました。

海上保安官の制服に身を包んだ2人は1日目、仕事についての講話を受講した後、心肺蘇生法等の救急講習、ロープワーク(ロープの結び)体験、巡視艇「あきぐも」搭載艇の操船体験を行いました。2日目には、模擬立入検査訓練、鑑識業務(指紋採取)の実習を行い、巡視艇「あきぐも」による体験航海では、操舵を握っての操船やレーダー、双眼鏡を使用している見張り等を体験しました。

3日目には、航路標識等交通部の仕事についての講話を受けて、棹崎灯台での機器の説明及び点検作業を体験しました。職場体験を終えた2人は、「大変、良い経験になりました。海上保安庁の仕事の幅広さには驚きました。」と話していました。



巡視艇の体験航海(上)と、鑑識業務(指紋採取)実習(右)の様子

